

ふるさと再発見！

vol. 20

ほうぼわかやま

FREE



巻頭インタビュー

国文学研究資料館長
ロバート
キャンベルさん

「読む — 歩くで楽しむ和歌山」

ほうぼわかやま
10周年
記念特集

1400年の和歌山ツーリズム

～ 時代を超越した憧れの地 ～

文化
散策
座談会

鉄道ものがたり ～南海電鉄加太線～
ローカル線散策 ～加太軽便鉄道の面影をさがす～
ふりかえり座談会 これまでの10年とこれから
世界に誇る「ふるさと和歌山」 ～和歌山県知事～
仁坂 吉伸

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

表紙絵：『紀伊国名所図会』初編二之巻「観海閣」（画 西村中和）に
株式会社ウィングが彩色したものです

時代を超越した憧れの地

1400年の わかやま ツーリズム

ほうぼわかやま

10周年
記念特集

和歌山には何も無い。

多くの県民の間で、枕詞のように使われる「何も無い」。しかし、歴史書に「わかわかのうらうら」^①「牟婁牟婁の湯」の記述が見られる1400年の昔から、紀伊国は都会人の憧れの地であり続けた。

ほうぼわかやまの創刊10周年にあたり、その1400年の歴史と、時代を超越した魅力を一挙に紹介する。忘れられている和歌山の歩みを掘り起こし、県民が自信を持って「和歌山出身だ」と言える助けとなるように。

各時代の様子を探るヒントとなるのは、その時代の文学作品の記述だ。県内には、万葉時代からの文学の故地が数多い。では、県外の日本文学研究者は、和歌山をどのように見ているのか。巻頭インタビューとして、国文学研究資料館長のロバートキャンベルさんにお話をうかがった。

巻頭

インタビュー

国文学研究資料館長
ロバート キャンベル さん

【取材協力】

ロバート キャンベル 氏

日本文学研究者 国文学研究資料館長

近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀（江戸後期～明治前半）の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。

ニューヨーク市生まれ。ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了後、1985年来日。

※注1：和泉式部日記…平安時代中期の歌人・和泉式部の日記。

※注2：長沢戸雪…独創的で型破りな作品を生み出した奇想の絵師。

※注3：泉鏡花…明治後期から昭和初期の小説家。代表作に『高野聖』『婦系図』など。

※注4：紀伊国名所図会…江戸時代後期に出版された地誌。紀伊国の当時の名所を記した案内書。

読む―歩くで 楽しむ和歌山

和歌山へは何度も

―まずは、日本や日本文学に興味を持たれたいきさつを教えてください。

サンフランシスコの高校時代に、太平洋の向こう側の世界に興味を持ちました。私の専門は近世文学ですが、はじめからその時代が好きだったわけではなく、現代から近代、近世へとさかのぼっていきました。大学の演習では、『平家物語』や『和泉式部日記』など、さらに古い時代の文学も読みましたよ。

―実際に日本を訪れてみた印象はいかがでしたか。

最初は九州でした。福岡、久留米、佐賀と、近い距離の間にそれぞれ違った文化圏が形成されていて、非常に面白かったです。やはり、歴史の深い地方は興味深いですね。

―日本各地に足を運ばれたと思いますが、和歌山にはどのようなイメージがありますか。

和歌山は熊野古道をはじめ、白浜、湯浅、高野山など、何度も訪れています。文化遺産や自然が大切に保たれているという印象です。県民のみなさんは、海が近いからか、豪快なイメージですね。

―海は、万葉の昔から、和歌山の魅力として知られていたようです。

海の印象は、現代人が思うより大きかったでしょうね。外に広がっている感じがありません。大好きな江戸時代の絵師・長沢芦雪も、串本に逗留してから画風が大きく変化しています。自由になっているんです。和歌山の風土の影響があるのかもしれない。

読む―訪れるで楽しむ

―特に印象に残った場所はありませんか。

もともと泉鏡花の『高野聖』が好きで、そのタイトルから高野山に興味がありました。その土地を実際に訪れることで、どういう思いであるのかな、幻想的な世界を描いたのか、より深くイメージすることができた。書物を読んだ知識を持つたうえで、その場所を歩いてみるのは、すごく面白いものです。

芦雪ゆかりの串本や、中辺路などの熊野古道も印象に残っています。熊野古道は、ひ

とつひとつの王子にさまざまなストーリー、伝承がある。そういうものも、歩くことで印象が深まります。

―和歌山の書物はどうでしょう。

江戸時代で言うと、「紀伊国名所図会」が面白いですね。人が指差していたり、臨場感がある。また、文字と絵の両方で当時の和歌山がイメージできます。(19号の表紙を見ながら) こういう錦絵も、文字が読めて、初めて理解できることもあります。

―和歌浦などは、今よりもにぎわっている感じがします。

確かに、華やかですね。ただ、文字や絵だけではその瞬間の雰囲気はわかって、時間の流れを捉えることができない。時間の感覚を捉えるためには、やはりその場所に行くことです。

地方の文化的な情報誌

―今号の表紙にも、紀伊国名所図会を使用しました。

そうなんですか。そういう文化的な情報誌を地方で発行してくれているのは素晴らしいことです。日本各地、どこも駅前とは違うものですが、そこから一歩踏み込めば、あまり知られていなかったり、意識されていない面白いものがたくさんある。私はそういうものをもっと知りたいと思っています。

―ありがとうございます。これからも地域の隠れた魅力を発掘できるよう、頑張っていきたいと思います。



熊野古道

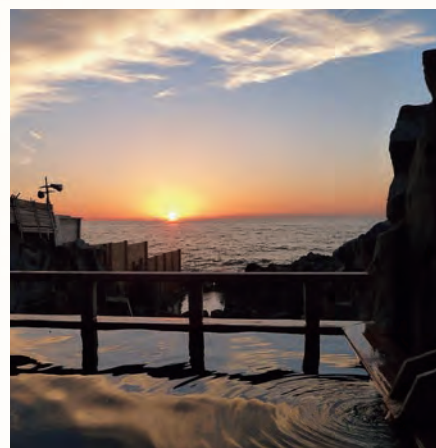
海を眺めるのに 最も良いところ ―日本初のリゾート「わかのうら」―



神亀元年（724）、わかのうらを訪れた聖武天皇は「海を眺めるのにここは最も良い。弱浦（わかのうら）を明光浦（あかのうら）と改めよ」と言ったという。この聖武天皇の行幸をはじめ、万葉の時代には多くの都人が紀ノ川を下り、紀伊国を訪れた。都人を魅了した古代の「わかやま」とは――

バカンスは紀伊国へ

「日本書紀」「続日本紀」などの歴史書によると、万葉の時代には、聖武以外にも多くの天皇が紀伊国を訪れている。多くは、「牟婁の湯」（現在の白浜温泉）を目指したもので、万葉の時代にはすでに有名な温泉地だったことがうかがわれる。



「牟婁の湯」に比定される白浜温泉

また、称徳天皇の行幸では、「わかのうら」の「南浜の望海楼に御して、雅楽及び雑伎」を楽しんだとある。都で知られた景勝の地として、旅人を歓迎する準備も整っていたようだ。

南海を賛美する万葉歌

紀伊国の万葉歌と言えば、何と言っても、聖武天皇の行幸に同行した山部赤人の「若の浦に潮満ち来れば渦を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」が有名で、のちの時代にも大きな影響を与えている。しかし、「万葉集」にはほかに、都から牟婁の湯までのルートを中心に多くの歌が残されている。それらの歌で目立つのは、

多くが作者未詳の作品だとい



玉津島神社境内にある万葉歌碑

うこと。多くの研究で指摘されているように、それは天皇の行幸に同行した名もなき都人の歌や、旅先の宴でたわむれに歌われたものなのだろう。いずれにしても、そこには奈良盆地から出発し、南海のダイナミックな風景に触れた都人の、浮き立つ心が表現されている。そしてその数々の歌が、その後の「リゾートわかやま」のイメージを形作ったと言えるだろう。

※注1：聖武天皇：奈良時代の天皇。東大寺大仏の造像を発願。

※注2：称徳天皇：父は聖武天皇。孝謙天皇。再度即位し、称徳天皇となった。

※注3：山部赤人：奈良時代の歌人で三十六歌仙のひとり。

※注4：巻八・九一九。

【訳】わかのうらに潮が満ちてくると千湯がなくなるので、葦の生える岸辺に鶴が鳴きながら飛んでいく

万葉の旅



1 真土山

紀和国境の真土山は、8首の歌が集中している。

白栲に にはふ信土の
山川に わが馬なづむ
家恋ふらしも

(巻七・二九二作者未詳)

【訳】白く映える真土山の山川に私の馬は行きなずんでいる。家の妻が恋しがっているらしい。



2 妹背山

紀ノ川をはさんで立つ妹山と背の山。夫婦を連想させるその山名が都人の郷愁を誘い、14首が集中している。

吾妹子に わが恋ひ行
けば 羨しくも 並び
居るかも 妹と背の山

(巻七・二二〇作者未詳)

【訳】恋人を恋しく思いながら進む私の前に、うらやましくも並び立っている妹と背の山よ。

3 和歌の浦・玉津島

有名な「若の浦に潮満ち来れば」は次の長歌の反歌である。都人を魅了した海と島々の風景が明るく華やかに歌い上げられている。

やすみしし わご大君
の 常宮と 仕へまつ
れる 雑賀野ゆ 背向
に見ゆる 沖つ島 清
き渚に 風吹けば 白
浪騒き 潮干れば 玉
藻刈りつつ 神代より
然ぞ貴き 玉津島山

(巻六・九一七山部赤人)

【訳】わが大君の永遠のお住まいとして私たちが仕えている雑賀野離宮から、背後に見える沖の島よ。その清い渚に風が吹けば白波が立ち、潮が引けば海人が海草を刈っている。神代の昔から、このように尊いのだ、玉津島は。



4 藤白坂

藤白坂は、紀の湯まで足を運ぶ際の主なルートで、「悲劇の皇子」有間皇子の最期の地。珍しい海景が都人の興味を引く土地でもある。

藤白の み坂を越ゆと
白栲の わが衣手は
濡れにけるかも

(巻九・二六七五作者未詳)

【訳】藤代坂を越えると、私の白い袖は(涙に)濡れてしまった。

5 白崎・由良の崎

紀伊国の万葉歌には、海景を歌ったものが多い。紀中・紀南の旅は、陸沿いに海路をとることも多かったようだ。

白崎は 幸く在り待て
大船に 真楫繁貫き
またかへり見む

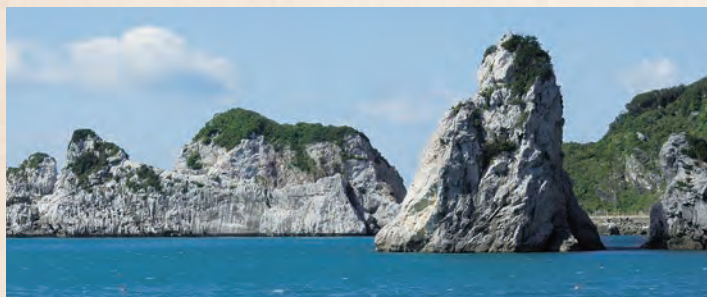
(巻九・二六六八作者未詳)

【訳】白崎は美しい姿で待っていておくれ。大きな船に立派な櫓をたくさん取り付けて、また戻って来て見たいから。

妹がため 玉を拾ふと
紀の国の 由良のみ崎
に この日暮しつ

(巻七・二二〇・藤原卿)

【訳】愛しいあなたのために美しい石を拾おうと、紀の国の由良の岬で一日を過ごした。



6 磐代

有間皇子の、自らの死を待つ2首で知られる。

岩代の 浜松が枝を
引き結び 真幸くあら
ば また還り見む

(巻二・二四一・有間皇子)

【訳】磐代の浜の松の枝を結んでも、もし今後、幸運があれば、また戻ってきてこれを見よう。

7 玉の浦

諸説あるが、本居宣長が現在の那智勝浦町の玉の浦であると指摘している。

荒磯ゆも まして思へ
や 玉の浦の 離れ小
島の 夢にし見ゆる

(巻七・二二〇二作者未詳)

【訳】荒磯の景色よりも一層に心を引かれたからか、玉の浦の離れ小島が夢にまで見える。

8 三輪崎

「み熊野」がどこを指すかは未詳だが、新宮市三輪崎沖の孔島に歌碑がある。

み熊野の 浦の浜木綿
百重なす 心は思へど
直に逢はぬかも

(巻四・四九六・柿本人麻呂)

【訳】熊野の浦の浜木綿のように、何度も重ねて恋しく思うけれど、直接は会えないのだなあ。

都を席卷した大ブーム 「蟻の熊野詣」の時代

上皇がブームを牽引

400年近く続いた平安時代の後半、空前の大ブームが都に巻き起こった。熊野信仰である。もともとは貴族中心のブームだったが、室町時代には庶民も詣でるようになり、その行列は「蟻の熊野詣」と呼ばれるほどに。同じ頃、万葉の名所「わかのうら」は、和歌の聖地としてさらに知名度を高めた。紀伊国は中世を経て、信仰の地として存在感を増していった。

熊野坐神社(熊野本宮大社)、熊野速玉神社、熊野那智大社の熊野三山は、古くは自然崇拜の地として修験道の修行場とされ、平安時代には神仏習合思想により、それぞれの主祭神を仏が形を変えた「権現」であるとする考えが広まるようになる。こうして熊野の地は修験道・神道・仏教が混然一体とした聖地として人々に信仰されてきた。

熊野信仰が広まったきっかけの一つが都の上皇による熊野御幸である。

記録に残るものでは「日本紀略」延喜七年(906)十月三日の項に記された宇多上皇による熊野御幸にはじまり、西国三十三所巡礼の起源とも

される寛和二年(986)の花山法皇の熊野御幸や、後白河上皇の33回の御幸など、上皇や女院が頻繁に熊野を訪れるようになる。

御幸のしきたり

熊野御幸の際には大勢のお供を引き連れていた上皇だが、食料などの物資はどうまかなっていたのか。「熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト準備会」の小野田真弓さんによると、紀伊半島には多くの荘園が点在し、各荘園を巡ることによって物資の調達が可能に行えたという。このことが、貴族達が熊野詣を繰

り返した背景にあった。

熊野御幸の出発日は陰陽師の卜占によって決められ、出発前の7日間離宮に籠り魚、肉、葱、韭などを断つ精進潔斎を行い、繰り返し経を読む行を行った。

都を出発した一行は、紀伊路から中辺路と熊野九十九王子社を順に参拝しながら、熊野を目指す。熊野九十九王子社は熊野権現の分身とされ、旅の休息所、宿泊所も兼ねて、熊野御幸が盛んに行われた院政期に整備された。最盛期には百社以上の社があったとされる(九十九とは数が多いという意味)。

旅の途中には水垢離を行い穢れを祓うことで儀礼的に死者となり、この世の浄土とされる熊野の地に辿り着くことができた。後鳥羽上皇の熊野御幸に随行した歌人藤原定家は、大斎原に到着した際の胸中を「感涙禁じ難し」と書き記している。(『熊野御幸記』)



熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト準備会

平成9年(1997)年3月、和歌山県青少年課主催の青年交流セミナーで行われたワークショップをきっかけにメンバーが集まった。「熊野古道」について深く調べていく中で「熊野古道」の何ものも排除しない懐の深さと「世界遺産」の柔軟性・寛容の精神が合致すること、また「世界遺産」登録により世代間・地域間を超えた交流が可能になるのではないかという思いから、『熊野古道』を世界遺産に登録するプロジェクト準備会』という任意団体を発足させた。

平成16年(2004)7月7日熊野古道の一部が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産(文化遺産)に登録される。

現在に残った史跡の追加登録や、熊野古道・世界遺産の普及のため、毎月1回熊野古道ウォークやイベント活動を続けている。

熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト準備会

〒640-8319 和歌山市手平2-1-2ビック愛9階
(社)和歌山県青少年育成協会内
TEL:090-1585-0423(事務局)073-433-1678(20時以降)
URL:www.kumako1997.com/

御蟻の熊野詣

熊野三山では宿坊を提供し旅の世話をする宗教者を「熊野御師」、参詣者を「檀那」、その間を仲介し道案内を務める修験者を「先達」とする関係性が生まれてきた。承久の乱以降、貴族の力が衰えてくると熊野御師は先達を全国に派遣し、地方の豪族などを檀那とするようになる。

室町時代から江戸時代にかけては熊野比丘尼と呼ばれる女性の宗教者が「熊野曼荼羅図」「熊野観心十界図」などを

用いて全国を回り、絵解きを行

うことで庶民の間にも熊野

信仰が広がっていく。一日約

800人が訪れたという記録

も残っており、行列をなした

参詣者の姿を「日葡辞書」で

は《アリノクマノマキリホド

ツツイタヨ」と記し、その様子

は「蟻の熊野詣」と呼ばれた。

それほどまで熱狂的に広

まったのは極楽浄土へ至る聖

地への憧れはもちろん、浄不

浄を問わず、老若男女身分を

問わず、すべての人を分け隔

てなく受け入れる熊野の懐の

深さにあつたのであろう。

中世コラム

行かなくてもたまつしま 一都に新玉津島神社が登場

京都に新玉津島神社という神社がある。玉津島神社の祭神のひとつ・衣通姫を祀る神社で、文治2年(1186)、当時を代表する歌人・藤原俊成が創建したとされる。

鎌倉時代にはここに「和歌所」(勅撰和歌集の編纂などを行う役所)が置かれた。また、室町時代には足利家が保護し、和歌の聖地として都人の尊敬を集めた。

「和歌の聖地」定着

平安時代から室町時代にかけて編まれた勅撰和歌集には、「わかのうら」や「たまつしま」が詠み込まれた歌が多く採られている。「わかのうら」の場合、鎌倉時代初期の「新古今和歌集」までの8集(八代集)では10首だが、その後の13集(十三代集)では159首も入集している。これは、新玉津島神社が創建され、聖地として定着していく流れと重なる。

聖地のイメージが定着すると、「わかのうら」と「和歌」をかけて詠む歌が増える。十三代集の159首も、実際に浦や神社を訪れたわけではなく、言葉遊びや想像で詠んだ歌がほとんどだ。

行かなくても詠めるようになったことで、「わかのうら」「たまつしま」のブランドイメージはさらに高まったのかもしれない。

〔自らが執筆した勅撰集の完成を心待ちにした足利尊氏の述べ〕

我が方に 和歌の浦風
吹きしより 藻屑も波の
便りをぞ待つ

〔訳〕私のところに勅撰集を編むという出来事が起こって(和歌の浦の風が吹いて)からというものの、私のような者(藻屑)も完成の知らせ(波の便り)を待っています。



和歌山の玉津島神社

※注1 日葡辞書：日本語をポルトガル語で解説した辞典。江戸時代初期に発行。当時の日本語を知る貴重な資料。

※注2 足利尊氏：室町幕府の初代将軍。

歌枕の世界にようこそ 江戸に紀州テーマパークが登場――

江戸時代、紀伊国は徳川御三家のひとつとして栄えた。第一の名所である「わかものうら」をはじめ、歌に詠み込まれる地名「歌枕」の地が多く、江戸や都の人々の間でも旅情を誘う地として定着していたようだ。とはいえ、まだまだ気軽に旅のできる時代ではない。そんななか、江戸に「紀州テーマパーク」とも言うべき庭園が登場した。行けぬなら、つくってしまえ――。

紀州の歌枕を再現

東京
大名庭園 六義園

五代将軍・徳川綱吉の側用人である柳澤吉保は元禄15年(1672)、和歌の趣味を基調とする大名庭園を築園した。和歌に造詣の深かった吉保は、「古今和歌集」の序にある和歌の分類の六義(むくさ)から、この庭園を六義園と名付けた。園内の池や築山は「古今集」の和歌の世界を現出する目的で配置され、それぞれが紀州の美しい歌枕の風景を再現している。和歌浦、妹山・背山、藤代峠、吹上浜、片男波など、県民にはおなじみの名前が並ぶ。

大都会に紀州の息吹

築園には7年の歳月が費やされ、造園当時から、小石川後楽園とともに江戸の二大庭園に数えられていた。

六義園が一般公開されるようになったのは、昭和13年(1938)、東京市に寄贈さ

れてから。同28年(1953)年には特別名勝に指定され、今でも大都会に紀州の息吹を伝えていく。

六義園サービスセンター 特別名勝 六義園

取材協力

- 開園時間：午前9時～午後5時(入園は午後4時半まで)
- 休園日：年末年始(12/29～1/1)
- 無料公開日：みどりの日、都民の日(10/1)
- 入園料：一般300円、65歳以上150円(いずれも個人)
- お問い合わせ先：六義園サービスセンター
〒113-0021 東京都文京区本駒込6-16-3
TEL.03-3941-2222



想像ふくらむ舞台芸術の流行 能・人形浄瑠璃・歌舞伎：

江戸時代は舞台芸術の時代。上演された多くの作品が人気を博した。古典文学が下敷きになったそれらの作品のうちには、紀伊国が舞台になったものもある。

平家物語

『平家物語』は数多くの舞台芸術作品の題材となつている古典であるが、なかでも「平維盛の都落ち」と呼ばれる一連の段は、特に人気のある場面のひとつである。

源氏により都を追われた維盛は加太から紀伊国に入り、和歌浦や吹上浜、日前宮などを過ぎて高野山に落ち延びたが、最終的には「那智の浜」で入水した。

吹上浜は日本最古の長編物語『宇津保物語』の巻名にもなっている名所で、中世・近世を通じ、玉津島や和歌浦と並ぶ歌枕の地だった。



現在の和歌山市吹上

道成寺

紀州道成寺にまつわる「安珍・清姫」の伝説は、能や歌舞伎で演じられたことにより、誰もが知る物語となった。

僧・安珍の裏切りにあつた清姫は、激怒のあまり大蛇となり、道成寺で鐘ごと安珍を焼き殺す。鐘に大蛇が巻きつく場面は舞台上でもインパクト十分で、能でも歌舞伎でも最大の見せ場となっている。



道成寺の境内

近世コラム

伝説のモチーフ 舞台芸術で拡散

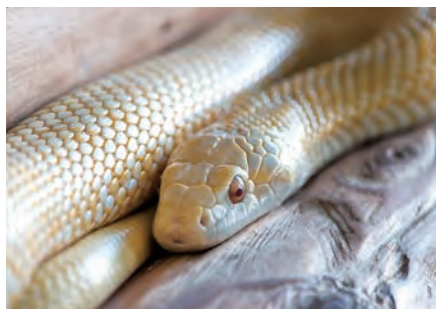
「道成寺」のモチーフになっている蛇の伝説。蛇が登場する日本の古典は、『古事記』をはじめとして、数多い。しかし、美女が蛇に変身する、あるいは美女の正体は蛇だったというストーリーのなかで、まず思い浮かぶのは、この「道成寺」ではないだろうか。

「道成寺」以前は、蛇はむしろ信仰の対象として、貴いものとされることが多かった。白蛇が祀られている神社・仏閣は枚挙にいとまがない。

蛇イコール美女（悪女）というモチーフができたのが、むしろ「道成寺」以降のことである。上田秋成の『雨月物語』にも、安珍・清姫伝説に取材したとされる「蛇性の淫」が

ある。

舞台芸術には、伝説の知名度を急激に高める拡散力があつた。蛇の伝説は、「道成寺」がなければ広く世の中に知られることはなかったかもしれない。



白蛇

※注1 平維盛：平安時代末期の平家の武将で、平清盛の孫。
※注2 上田秋成：江戸時代後期の読本作者。怪奇小説『雨月物語』で知られる。

近代の文人たちが 見た和歌山

万葉の時代より人々に親しまれた和歌山。その景観は、近代を代表する文人たちをも魅了した。そんな彼らと和歌山のふれあいを辿ってみよう。



漱石も愛でた和歌浦からの景観

病をおしての名所巡り
夏目漱石

其処は高い地勢のお蔭で四方とも能く見晴らされた。ことに有名な紀三井寺を蔚鬱した木立の中に遠く望む事が出来た。その麓に入江らしく穏やかに光る水がまた浜辺とは思われない沢辺の景色を、複雑な色に描き出していた。『行人』

※和歌浦は真供山からの景観を描写したとされる箇所

明治44年(1911)8月、漱石は和歌山で「現代日本の開花」と題する講演を行った。当時すでに人気を博していた漱石を見ようと、会場である旧県会議事堂は階上階下とも人で溢れ、約1200人もの聴衆でひしめき合った。講演前、和歌山に到着した漱石は、すぐに和歌浦の旅館・望海楼を訪れ、玉津島神社裏の奠供



漱石の講演が行われた旧和歌山県議会議事堂。現在は、岩出市根元に移築

山から和歌浦を一望し、その景観を愛でたという。彼は当時、持病の胃潰瘍を患っていたが、短い滞在時間ながらも紀三井寺や紀州東照宮、片男波など精力的に和歌山の名所を訪れた。彼が見た和歌山の景観は、大正元年(1912)より連載が始まった小説『行人』にも詳細に描かれている。

高野山での日々

谷崎潤一郎

昭和6年(1931)、谷崎は多額の借金による土地家屋差し押さえのため、二人目の妻・丁未子を伴い高野山に約

130日間滞在した。泰雲院に滞在し、執筆活動のかたわら以前より興味を示していた密教研究にも取り組んだという。(谷崎潤一郎全集第26巻「年譜」)谷崎はこの地で、彼の代表作の一つとされる、織田信長の妹お市の悲劇的な後半生をつづった小説『盲目物語』や、高野山は増福院寺伝の僧侶が天狗になるという伝記を基にした短編『覚海上人天狗になる事』を執筆した。

原体験となった熊野旅行

折口信夫

わが帆なる。熊野の山の朝風に、まぎり、おしきり、高瀬をのぼる(『海やまのあひだ』)

稀代の民俗学者として有名な折口信夫は「釈迢空」と号した詩人・歌人でもあった。彼の歌人としての出発点である『安乗帖』と題する歌集ができるきっかけとなったの

が、若き日の熊野旅行と言われている。（『釈道空歌集』）大正元年、当時26歳の国語教師であった折口は自身の教え子二人を連れて熊野路を旅した。途中、山道に迷ったり、ふた晩も野宿し絶食状態であったりと、思いがけず苦勞の多い旅になったという。しかし、この苦難に見舞われた旅が彼の歌人としての独自の世界観に影響を与えたのは間違いないだろう。



折口も立ち寄ったのであろうか、熊野の湯の峰温泉

河東碧梧桐

我輩は一人の先生を有する紀州熊野の山川の幸福を思つて已まぬ（「南方先生」）

俳人・正岡子規の門人筆頭の一人にあがる河東碧梧桐は、天性の芸術的資質と孤高の精神を併せ持ち、型破りな「新傾向俳人」の道を歩んだ。子規に師事しながらも、独自の俳風を樹立しようと考えた碧梧桐は明治39年（1906）、日本全国を行脚しながら俳句を作る旅に出た。明治40年（1907）紀州に入り、俳人仲間の薦めで田辺の南方熊楠に会う。はじめはその体格と威風に気負いもあった碧梧桐だったが、熊楠の博識や豪快さに魅せられすっかり意気投合した。彼はのちに「この一日が我輩の為には奥熊野を探るよりも価値のある一日で

あったことを心から感謝した。（『続三千里（下）』）と回顧している。この在野の天才学者から碧梧桐は大いなる薫陶を受けたのであった。

期せず幼少期を思い出した旅
川端康成

「新和歌浦、望海楼。紀伊の姿を眺め、旅情しきりに動く」（『西国紀行』）

近代日本文学を代表する小説家であり、日本人初のノーベル文学賞を受賞した康成。彼は講演旅行の記録「西国紀行」（川端康成全集第26巻）の中で、和歌山を訪れた思い出を綴っている。南海電車で揺られ和歌山市に降り立ち、和歌山城、和歌浦、箕島、御坊、田辺などの名所を周遊。その後白浜の湯崎温泉を訪れ、旅の疲れを癒した。翌日は地元で地こぎ網漁業を見物し、その帰路、紀三井寺に詣るなど、和歌山の名所巡りを存分に楽しんだ様子がかがえる。紀三井寺では、西国三十三所二番の札所で二番の御詠歌をあげた。

康成の生まれは二十三番の札所がある大阪・勝尾寺の近くであり、彼は幼い頃にこれらの御詠歌を子守歌代わりに聞いていた。今回の旅でその昔を思い出し、追想にふけたという。

※御詠歌…仏教の教えを和歌で表現し、節をつけて唱えるもの。西国三十三所の札所にはそれぞれの御詠歌がある。



湯崎温泉を楽しんだ翌日、康成は湯崎の地こぎ網漁業を見学した

旅のおわりに

―万葉の時代から近代まで、多くの旅人が和歌山を訪れ、その感慨を文字にして残してきた。時代によって受ける印象は異なるが、海や山の自然を賛美し、また和歌を中心とした文学に思いをはせていることは変わりがない。

昭和天皇は昭和4年（1929）に南紀を訪れ、その際の感慨を「紀の国の潮岬に立ち寄りて沖にたなびく雲をみるかな」と詠んだ。

1000年以上に渡って旅人の心をとらえてきたそのダイナミックな景観は、これからも変わらずそこにあつてほしい。和歌山の魅力をいちばん知らないのは、ほかでもない県民ではないか。特集では、あくまでその魅力の一部を紹介したに過ぎず、ここから深く掘っていけば、さらに興味深いストーリーがたくさん隠れているに違いない。

鉄道ものがたり

— 南海電鉄加太線 —

加太軽便鉄道 加太駅

和歌山市北西部で運行する南海電鉄加太線は、開業から100年余り。沿線の各駅にはレトロな雰囲気残り、特に終着駅の加太駅は開業当時から大きく変わらない様相だ。幹線から分岐したレールの向こうには、懐かしい風景が残っている。

はじまりは明治の

蒸気鉄道

南海電鉄加太線は、紀ノ川駅～加太駅を結ぶ9.6kmのローカル支線だ。すべての列車が和歌山市駅を発着するが、和歌山市駅～紀ノ川駅間は南海本線であり、紀ノ川駅から分岐して加太線となっている。利用者は通勤・通学客がメインで、磯ノ浦への海水浴客や加太への観光客でも賑わいをみせる。

加太線のはじまりは、明治45年(1912)に和歌山口駅(後に北島駅)～加太駅を結ぶ路線として開業した蒸気鉄道の「加太軽便鉄道」だ。

全国で、1880年代後半から鉄道や紡績などを中心に起業ブーム(企業勃興)が起こる。和歌山県でも県会議員の垣内太郎などを発起人として資本

家が鉄道事業に乗り出した。

明治29年(1896)に、垣内の地元である木本村を通るルート野崎村北島～加太町間での鉄道敷設の申請をしたが、不許可となる。

同年には、和歌山～山東間(後の山東軽便鉄道、現わかやま電鉄貴志川線)も申請されるが同じく不許可となった。当時の私設鉄道法は小規模鉄道には大変厳しいものだった。

わが村わが町に

走れ鉄道

明治42年(1909)には再申請をされていたが、その翌年に私設鉄道法を大幅に緩和する「軽便鉄道法」が公布されると、すぐに申請内容が変更された。当時の「軽便鉄道敷設特許願」では、鉄道の必要性を次のように説いている。

(前略) 抑も加太町は人口約八千人を有し、日用の雑貨は多年の習慣としてこれを和歌山市におおぎ港湾の便よろしく淡路、四国、大阪等の連絡要港にあり。殊に有名な淡島神社は参詣者おびただしく、深山重砲連隊もまた設置せられ、旅人の出入頻繁なり。(後略)

軽便鉄道敷設特許願より

ようやく軽便鉄道免許状が下り、明治44年(1911)に「加太軽便鉄道株式会社」が設立され、翌年には開通となった。山東軽便鉄道の開通は、その4年後のことである。

垣内太郎は県会議員を退任後、加太軽便鉄道と山東軽便鉄道の初代取締役社長として鉄道経営に尽力した。

市域への乗り入れ

開通当時の路線は市域には届かず、始発駅の和歌山口駅は紀ノ川右岸(北側)だった。大正3年(1914)に紀ノ川橋梁が完成し、ついに市域まで路線が延ばされる。和歌山市駅と隣接した新たな駅が「和歌山口駅(2代目)」となり、これに伴い初代の和歌山口駅は廃止され、近くに北島駅が設置された。昭和5年(1930)には電化がすすみ「加太電気鉄道」と社名変更した。その後、昭和17年(1942)に南海鉄道(現南海電気鉄道)と合併し、「加太線」が誕生した。同時に和歌山



電化の時に導入された新車両

口駅は和歌山市駅の一部となった。

住金製鉄所の開所

昭和17年(1942)4月、住友金属工業和歌山製鉄所(現新日鐵住金和歌山製鐵所)が開かれた。戦時下の軍需工場として様々なものを増産し、それらの材料や製品と工員輸送に加太線は重要な役割を担うこととなった。

しかし、軽便線の細い橋梁では輸送需要に耐えられず、10月には貨物専用線として本線の紀ノ川駅～東松江駅間に「松江支線」を敷設し、貨物車はすべて紀ノ川駅経由することになる。昭和25年(1950)には貨物のみだった新線経由が旅客営業を開始した。

2度の水害に

見舞われる

和歌山市駅～東松江駅間の旧線は存続していたが、同年のジェーン台風と昭和28年(1953)7月の豪雨により

紀ノ川橋梁が被害を受け営業休止になり、そのまま復旧することはなかった。「北島支線」として残っていた北島駅～東松江駅間も昭和41年(1966)に国道バイパス建設に伴って廃止された。

鉄道橋として使用できなくなった紀ノ川橋梁は和歌山市に譲渡され、歩行者と二輪車専用の生活道路「河西橋^{かさい}」として現在も多くの人々に利用されている。建設から二世紀以上が経過する現在は、橋の老朽化が否めず、2023年の完成を目指して架け替え工事が進められている。

企業城下町の盛衰

昭和44年(1969)、住友金属工業和歌山製鉄所に第5高炉が完成し、世界最大規模となる。ピーク時の昭和45年(1970)には、粗鋼生産量が年間900万トンと世界一を誇り、従業員は1万3千人になった。九州を中心に全国から従業員が集められ、加太線沿線

は企業城下町として栄えた。しかし、1970年代の2度のオイルショックを機に景気が悪化し、「鉄冷え」とも呼ばれる鉄鋼業の不況に突入した。製鉄所では減産がすすみ、昭和59年(1984)には貨物線営業が廃止となった。

人口減少だけでなく、自家用車の普及やレジャーの多様化も加太線の利用者数に大きな影響を与え、利用者数の減少が続いた。

観光列車を 地域活性化のカギに

現在、南海加太線は利用者数の減少に歯止めをかけつつある。地元の観光協会と共同で取り組んでいる活性化策「加太さかな線プロジェクト」が成果をあげているのだ。

昨年4月から運行している観光列車「めでたいでんしゃ」は、加太を代表する海の幸「鯛」をモチーフにピンクを基調とした車両で人気を集めている。今年10月には、「海」をモチーフにした水色バージョンも



人気の観光列車「めでたいでんしゃ」

仲間入りした。沿線の各駅はレトロな雰囲気が残り、車窓からの眺めは住宅街から海沿い山間部まで変化にとんでいる。読者の皆さんにも沿線スポットに出かけていただきたい。初めてでも、久しぶりでも、懐かしい風景と新たな発見に出会えるだろう。

取材協力:

・南海電気鉄道株式会社
・亀田匡宏氏
(元和歌山社会経済研究所 主任研究員)

写真提供:

・和歌山市立博物館
・古書肆 紀国堂(こしよ きこくどう)
TEL 073-499-8039

ローカル線散策

加太軽便鉄道の面影をさがす

通勤、通学に利用する機会が多い和歌山市の皆さんに馴染みが深い南海電鉄加太線沿いを歩く。

旧路線跡の痕跡を探しながら、建て替え工事中の和歌山市駅をスタート。駅の北側にまわると、紀ノ川が見え、歩行者と二輪専用の細い橋「河西橋」が現れる。現在はいく少し川上にある鉄橋を南海本線の電車が走っているが、旧路線はこの華奢な細い橋を走っていた。かつては釣り人がよく竿をふっていたが、現在は釣りが禁止されている。

橋を渡り、野崎地区から島橋地区を通り抜け東松江駅まで歩いてみた。旧線路の跡は見つけられないが、高い所から眺めると和歌山市駅から一直線に道路が存在しているため、まさにここを通っていたのだと、面影を感じることができた。東松江駅の少し東側に土入川を渡る小さな鉄橋がある。並行して歩行者用の橋が並んでいて、旧路線はこの橋を電車が走っていた。



歩道橋から東側。和歌山市駅まで一直線に旧路線が続く。

歩道橋から西側。右の道路に旧線路が通っていた。

② 旧北島駅あたり
河西橋を渡った野崎地区。現在はきのくに信用金庫の支店があるが、このあたりに北島駅があった。その当時、駅の周りは蓮池だった。

① 河西橋
軽便鉄道が紀ノ川を渡っていた橋。現在は二輪と歩行者専用橋になっている。

③ 歩道橋
県道750号(旧国道26号)にある歩道橋から旧線路だった道を眺めると、和歌山市駅まで直線で結ばれているのがよくわかる。

東松江駅東側にある鉄橋

この道路には住友金属への専用引き込み線があった。



⑩ オジバ商店

港町の町屋を利用した古民家カフェ。懐かしい雰囲気がとても居心地が良い。かわいい雑貨も取り扱っている。
TEL090-2597-7181 土日のみ営業 和歌山市加太249



⑦ カフェ楓荘

磯ノ浦駅から徒歩2分にあるおしゃれな海のカフェ。食事やスイーツが楽しめ、大人気のWeekend Burger はボリューム満点。TEL073-499-8246 定休日:火曜日
和歌山市磯ノ浦103



⑤ 木本八幡宮(きもとはちまんぐう)

八幡前の駅名にも名称が使われており、初詣などで賑わう。毎年10月の例祭前日に奉納される獅子舞は和歌山県指定無形民俗文化財に指定されている。



⑨ キシモト

揚げパンは地元では有名。懐かしさを感じる館ドーナツ。人気のため売り切れる場合もあり。土日のみ営業。和歌山市加太J341



⑧ 磯の浦海水浴場

一年を通してサーファーが集まるサーフィンスポット。地元の人からは「イソコ」と呼ばれ親しまれている。

東松江駅から八幡前駅まで乗車する。旧路線はこの駅間に住友金属(現新日鐵住金)に乗り入れる線路があったそうだが、八幡前駅から、木本八幡宮まで20分程歩く。木本八幡宮は500年の伝統がある県指定無形文化財の獅子舞が有名。時間があれば近くのハーブ園に寄ってもいいだろう。西ノ庄駅まで歩き、磯ノ浦駅まで乗車する。この区間は可愛らしいデザインの「めでたいでんしゃ」に乗ることができた。

サーフィンのメッカでもある磯の浦に着いたところで昼食をとった。浜辺を少し歩き、加太駅まで乗車する。淡嶋神社にお参りしたりカフェで休憩したり、加太を満喫し、再び加太線に乗り和歌山市駅に戻った。今回の散策は徒歩と電車を組み合わせて朝から夕方まで丸一日楽しめた。コース途中の下車する駅や歩く距離など自由にプランを練って楽しんでみてはいかが。



⑥ 西ノ庄駅



④ 東松江駅

現路線と旧路

和歌山北高西校舎

八幡台小学校

西脇中学校

ダイソー

松源

ヒダカヤ

ジョイフル

エバグリーン

GS

ろうさい病院

セリア

木ノ本小学校

河西中学校

交番

木本八幡宮

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

西脇小学校

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前

西ノ庄

二里ヶ浜

和歌山北高西校舎

西脇中学校

八幡台小学校

八幡前



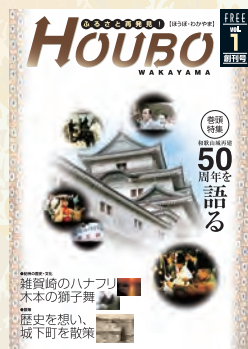
先見性に富んだ和歌山の偉人達を取り上げた



和歌山は近畿でも有数の星が綺麗に見える土地



意外と知らないお正月の迎え方とその意味を特集



創刊号特集は再建 50 周年を迎えた和歌山城

ほうぼ わかやま

ふりがえり座談会

これまでの10年とこれから

発刊10周年を節目に本誌にかかわる4人が集い座談会をおこなった。発行のいきさつから、思い出や裏話などで振り返り、これからの抱負を語り合った。初めての読者はもちろん、以前からの読者にも、編集部の様子や私たちの思いを感じとってもらいたい。

ほうぼわかやまが
できるまで

松下「ほうぼわかやま」ができたいきさつは、前社長の松田さんが県外で仕事をしていた際、県外の方々に自分たちが住む和歌山という土地の魅力をうまく説明することができず言葉に詰まったという経験が発端です。「私たちは自分たちが暮らし働く土地の歴史や文化についてよく知らないのではないか」。おそらく多



くの県民がこのように感じていると思いますが、松田さんはそこからさらに一歩踏み込んで、「それなら自分たちの手で和歌山の魅力を掘り起こして、この地に

住む人々に地元の素晴らしさを知ってもらおう活動しよう」と考えました。そのための活動として、フリーペーパー制作を提案されたのには、誰にでも気軽に手に取ってもらえるようにするという気持ちがかもつていたのでと思います。私もその気持ちを引き継いで、取り組みを続けています。

北川「私たち社員として

も、この取り組みは、「地域社会の中で存在意義のある会社をめざす」という社



宇治田 健志
ほうぼわかやま副編集長

松下 忠
(株)ウイング代表取締役社長

岡 京子
ほうぼわかやま編集長／
(株)きのくに未来ビジネスセンター 代表取締役

北川 知
ほうぼわかやま元副編集長



野球王国わかやまの栄光をたたえた号



わかやま冬の味覚を代表する海の王様クエ特集



路面電車の面影を懐かしい写真と共に振り返った



表紙の書は女性書家・紫舟さんによるもの



紀の国や和歌山などの地名の由来を掘り下げ紹介

岡…その頃、私のところに連絡がありまして、「社内の人間だけでは一からフリーペーパーを立ち上げるのは難しいので手伝って欲しい」と依頼を受けました。元々、松田さんとはお仕事での付き合いがあったのですが、私に編集の経験があるということ、お話がきかたんですね。その発行理念

「創刊エピソード」

の理念にぴたりであることから乗り気でした。また、企画を考えるとところから取材や編集までを自分たちの手で行うことで、この活動を社内教育の一環として行えると考えました。ただ、これまでフリーペーパーというものを一から作ったことがなかったので、正直どこから手をつけばいいのかまったく分かりませんでした。



取材から撮影まで全て自分たちで行う

に共感し、二つ返事で引き受け、編集長になったのですが、正直私一人だけではどう作り上げていけばいいのかまだ不安だったんです。松田…そこで、私と松田さんとで外部の方々に協力をお願いしました。宇治田…最初の頃は僕もまだいなかったのですが、詳しく知らなかったのですが、和歌山大学経済学部元教授の大泉英次先生や、「わかやま絵本の会」元代表の故・松下千恵さん。他にも、和歌山県文化国際課（当時）の職員、和歌山大学の学生

「『ほうぼ』の由来」

岡…「ほうぼ」という名前の由来は本当によく聞かれますね。ピンとくる方にはすぐ分かると思いますが、など、色々な方たちの協力があつてスタートできたのです。松田…そうですね。皆さんとても個性的であるのに加えて、本当に熱い思いを持って参加してくださったので、毎回、意見やアイデアをまとめるのに非常に苦労した記憶があります。（笑）

わかやま弁で「あっちこっち」という意味です。和歌山のほうぼはあっちこっちの魅力を見出し、広めていこう。そういった思いからこの名前をつけました。北川…なんといっても覚えやすいということで、思いのほかすんなり決まりました。宇治田…ちなみに、一つお聞きしてみたのですが、第1号だけ「ほうぼ」の表紙がローマ字で、その後は平仮名になりましたよね。これは何故なんですか。北川…第1号を発行した後に、「ローマ字での表記だと、ほうぼという名前に込めた意味が分かりづらい」であったり、「平仮名での表記のほうが力も抜けていて親近感も持ちやすい」といった意見が社内です。出まして、創刊早々変更することになったんです。



100年にわたり親しまれ続けるお城の動物園を特集



和歌山が誇る自然の魅力を守り発展させる活動に着目



40年以上前に行われた前回の国体にスポットを



生産量日本一を誇る「黒竹」。その生産工程を紹介



この地で育まれ今に伝わる「川上酒」の魅力を集

岡：最初の手探り感というのが如実に出てますよね。ある意味、幻の号です。宇治田：そうだったんですね。（笑）

取材から撮影まで 全て自分たちで



ましたね。散策のページは事前にリサーチを行うのですが、有志での参加にもかかわらず毎回多くの社員が参加します。私たちは基本デスクワークばかりしてま

すから、外に出て人の話を聞いて実際に歩いて、というのは非常に面白いですね。

宇治田：後で出てきます

が、13号の「南紀熊野ジオパーク」の表紙写真を撮るときなんかは、崖から落ちかけたりとトラブルもありました。

岡：机で座ってるだけでは、絶対にできない経験ですよ。何より、自分たちが面白がりながら紙面を作ることって大事なのかもしれないですね。

反響の大きかった号

北川：反響が大きかったのは、7号の「チンチン電車」特集と、12号の「黒潮

国体」特集でした。配布分はすぐに無くなってしまいました。

宇治田：それは何故なんでしょうか。

北川：いろいろ理由はあると思うのですが、やっぱり昔の写真が多かったからではないでしょうか。ほうぼの特徴としては読者の年齢層が高めなので、当時のことを覚えていた方が昔の写真を見て、「あー、こんなやつた」と昔を懐かしんだりしたそうです。

岡：それだけではなくて、その当時を知らない人に「昔はこんなやつたんで」と説明して、若い人が「そうだったんですか」と興味を持って会話になったりしたみたいですね。

松下：ほうぼがキッカケで会話が弾んだり、コミュニケーションが活発になるというのは、とても嬉しいことです。

話題を先取りした号も

宇治田：13号で取り上げた「南紀熊野ジオパーク」、16号の「小田井用水」は、発行後にそれぞれ、日本ジオパーク、世界かんがい施設遺産に選ばれましたね。

北川：特集した時はそれほど注目を集めていたわけではないのですが、自分たちが「これ面白い」と思っ





相撲どころ和歌山の魅力を江戸時代から巡った



和歌山における移民の歴史を取り上げ紹介



「ハデ」婚のルーツは和歌山に!? 華やかな婚礼儀式を特集



治水技術という観点から見たこの地の歴史にフォーカス



今もなお進化し続ける伝統技法に光を当てた



リサーチには、編集員以外も有志で参加する

岡…こういった、まだ注目されていない和歌山の魅力をもっともって掘り起こしていききたいですね。

これから
ほうぼわかやま

松下…私個人としては、このフリーペーパーを見て、「ほうぼわかやまを作っているウイングで働きたい」と、若い人たちがこの会社

に入ってきてくれることが本当に嬉しい。なので、これからこの活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図っていききたいと思っています。

宇治田…僕も入社を決め手はほうぼわかやまでしたからね。(笑)

北川…そんな宇治田さんに、創刊10年の節目として私から副編集長の役割をバトンタッチしました。

宇治田…はい。これからさらに10年を見据えて、「懐かしい昔を思い出せるほうぼわかやま」を大事にしながらも、「知らなかった地の元の魅力に気づけるほうぼ



わかやま」という理念を見失うことなく、この活動に取り組んでいきたいと思っています。

岡…「ウイングが作ってるほうぼわかやま」ではなくて、「ほうぼわかやまを作ってるウイング」と呼ばれるまでこの活動を広めていきたいですね。私も編集長としてこれからもお手伝いを続けていきたいと思っています。

料金受取人払郵便

和歌山中央局
承認

2259

差出有効期限
平成30年3月
31日まで

郵便はがき

6 4 0 8 7 9 0

和歌山市梶取17-2

株式会社 ウイング
「ほうぼわかやまクイズ
&プレゼント」係



ふりがな			
お名前			
年齢	歳	性別	男 ☒ 女 ☐ ご職業
ご住所	〒		
電話番号			
クイズの答え	1 ・ 2 ・ 3 ※あてはまるものを1つお選びください。		
本誌の入手場所			

※応募くださいました個人情報、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

世界に誇る「ふるさと和歌山」

和歌山県知事 仁坂 吉伸



仁坂知事

皆さんが生まれ育った和歌山県には、温暖な気候、変化に富んだ海岸線、たくさんの生き物が棲む美しい海、緑豊かな山々、清らかな河川などの豊かな自然や歴史、伝統、文化、さらには四季折々の多彩な食材、温泉や各地に伝わる伝統行事などがあります。そして、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」、10月に登録されたばかりの世界かんがい施設遺産「小田井用水路」など、世界に誇るべき魅力あふれる資源がたくさんあります。

また、和歌山の本当の良さ、すごさは人にあり、和歌山県人は、新しい技術を生み出す豊かな発想力とそれを各地に伝える積極性を備え、実直で進取の気性に富み、県の内外を問わず様々な分野で社会をリードしてきたのです。

でも私たちには、知らないことがまだまだあると思います。私は、和歌山県のことを勉強すればするほど、そのすごさに驚き、知らなかったことを大いに後悔しました。ふるさとの良さに気づかないことは「もったいない」ことだと思つたのです。

和歌山の自然、歴史、文化そして先人たちのことをもっと知ってください。世界に誇れる「ふるさと和歌山」を心の支えに、未来に向かって歩んでいきましょ。

編集後記

あつという間に10年が過ぎ、「ほうぼわかやま」は20号を数えました。ご愛読ありがとうございます。

今号の「座談会」でもお伝えしました通り、この10年間の「ほうぼわかやま」にはいろんなドラマがありました。「役得」とはこのことで、編集長をさせていただいたおかげで、和歌山の素敵な面をたくさん知ることができました。そして、それをみなさんとできるだけ共有させていただこうという思いで、これまでも取り組んでまいりました。

今回も、和歌山の素顔が満載です。あのロバート キャンベルさんも巻頭インタビューで、和歌山の魅力を語ってくれています！でも、和歌山生まれの私よりもキャンベルさんの方が断然詳しくて、驚き、また、感激しました。みなさまはいかがでしたでしょうか？

加太線の歴史についても取り上げさせていただきましたが、実は、編集部には加太線沿線で生まれ育ったスタッフが多く、いつも編集会議では、子どもの頃の思い出や地元ネタに脱線して盛り上がりを見せていました。

そんな調子でこれからも「真剣」かつ「楽しく」作ってまいりますので、読者のみなさまも今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第20号編集長 岡 京子



印刷物を中心に広報活動をお手伝いする会社です。「ほうぼわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。自社コンテンツとして就職応援BOOKの企画・作成も行っています。【沿革】創業1972年。設立1981年。

「ほうぼわかやま」発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

ほうぼわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp>

お問い合わせ先 ☎0120-136-700



協力機関

本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

和歌山県、国文学研究資料館、株式会社ある日のこと、熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト準備会、六義園サービスセンター、南海電気鉄道㈱、和歌山市立博物館、古書肆 紀国堂

表紙絵は、原画「紀伊国名所図会」に彩色したものです。

クイズとアンケートで当たる!!

クイズにお答え頂いた方の中から抽選で

めでたいさいふ 10名様
クリアファイル 10名様
復刻版絵はがきセット 10名様

いずれか合計30名様にプレゼント!!

種類・色はお選びできません
あらかじめご了承ください。

問題

紀州の名所を再現した
大名庭園の名称は？

ヒント

本号のどこかに
答えが載っています

①甲子園 ②後樂園 ③六義園

応募方法

Vol.19の答えは①化粧まわしでした。

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函(切手は不要です)
もしくはメールにて応募ください。 houbou@w-i-n-g.jp

メ切 2018年3月末日



本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。